



平成 18 年 1 月 6 日

各 位

会 社 名 カッパ・クリエイト株式会社  
代 表 者 代表取締役社長 山下 昌三  
(コード番号 7421 東証第 1 部)  
問合せ先 常務取締役人事部・IR 担当  
池 端 伸 穂  
電話番号 048 - 650 - 5100

### 特別損失の発生及び繰延税金資産の取崩し並びに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、下記のとおり、平成 18 年 5 月期中間決算において、「固定資産の減損に係る会計基準」を適用することに伴う減損損失の計上及び投資損失引当金に係る繰延税金資産の取崩しを行うことを決定いたしました。併せまして、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 17 年 7 月 7 日の決算発表時に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 「固定資産の減損に係る会計基準」の適用に伴う減損損失の発生について

「固定資産の減損に係る会計基準」の適用に伴い、当中間期において減損処理を行い、連結 1,178 百万円、個別 278 百万円の減損損失をそれぞれ計上いたします。

#### 2. 投資損失引当金に係る繰延税金資産の取崩しについて

当社は、子会社株得得の株式に対する投資損失引当金に係る繰延税金資産の回収可能性について検討を行った結果、当該子会社の経常損益は黒字に転換しておりますが、当中間決算における減損損失の増加や事業計画の変更等により回収期間が当初の見込みよりも長期となる可能性が高いと判断したことから、当中間期において、当該繰延税金資産 594 百万円の取崩しを行うものであります。

#### 3. 平成 18 年 5 月期の中間業績予想数値の修正 (平成 17 年 6 月 1 日 ~ 平成 17 年 11 月 30 日)

##### (1) 中間連結業績予想数値の修正

(単位：百万円、%)

	売 上 高	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	33,500	700	450
今 回 修 正 予 想 (B)	31,628	285	1,623
増 減 額 (B - A)	1,872	415	1,173
増 減 率 (%)	5.6	59.3	-
(ご参考) 前期実績 (平成 17 年 5 月期中間)	32,539	2,135	1,187

## (2) 中間個別業績予想数値の修正

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	31,800	600	90
今回修正予想(B)	30,450	184	817
増減額(B-A)	1,350	416	907
増減率(%)	4.2	69.3	-
(ご参考) 前期実績(平成17年5月期中間)	30,514	2,642	566

## 4. 平成18年5月期の通期業績予想数値の修正(平成17年6月1日~平成18年5月31日)

## (1) 通期連結業績予想数値の修正

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	67,800	2,600	650
今回修正予想(B)	63,700	1,550	1,000
増減額(B-A)	4,100	1,050	1,650
増減率(%)	6.0	40.4	-
(ご参考) 前期実績(平成17年5月期)	65,620	1,860	324

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 59円27銭

## (2) 通期個別業績予想数値の修正

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	65,000	2,330	980
今回修正予想(B)	61,600	1,400	230
増減額(B-A)	3,400	930	1,210
増減率(%)	5.2	39.9	-
(ご参考) 前期実績(平成17年5月期)	62,077	2,675	384

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 13円63銭

## 5. 修正の理由

## (1) 中間連結業績予想の修正

当中間期の連結売上高は、316億28百万円となり計画に対し5.6%下回る見込みであります。

この大きな要因といたしましては、主力の寿司事業における既存店売上高の回復が遅れたこととあります。今期の上期における新規出店は9店舗(前期上期32店舗)と大幅に抑制した中で、店舗オペレーションの標準化と従業員教育を最重要課題として取り組んでまいりました。その結果、諸施策の浸透に時間を要したため積極的な広告販促活動に至らなかったこと、また、同業他社との競争が一段と厳しくなってきたためであります。

当中間期の利益面につきましても、主力のすし事業において、原価率は当初の見込みより先改善し推移したものの、上記の理由による既存店売上高の未達分を吸収しきれず、また、諸施策に伴う人件費や固定費負担等

から経常利益は2億85百万円(計画比59.3%減)となる見込みであります。

中間純利益につきましては、前述の通り減損処理については、当中間期において営業店舗等の状況について見直しを行った結果、連結子会社における新たな閉店等により当初見込みの9億50百万円に対して11億78百万円と2億28百万円増加し、また、連結子会社株得得の株式に対する投資損失引当金に係る繰延税金資産5億94百万円の取崩しを行った結果、特別損失の増加と法人税等調整額の増加により中間純利益は16億23百万円となる見込みであります。

## (2) 通期連結業績予想の修正

通期の業績予想につきましては、上記の中間連結業績予想を踏まえ、連結売上高637億円、経常利益15億50百万円、当期純利益10億円にそれぞれ修正いたしました。

主力の寿司事業におきましては、当初の見込みに反して時間を要してはおりますが前期下期を底として徐々に改善傾向にあります。当期下半期の新規出店は見込んでおらず、引き続き従業員教育と店舗オペレーションの標準化に注力し、これら諸施策の浸透による既存店売上高の底上げと人件費等販管費比率の改善を図ってまいります。

なお、当業績予想の修正による期末配当予想の修正は行いません。

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。

実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上